

栃木 TOCHIGI

宇都宮支局 〒320-0822 宇都宮市河原町1-4 電話 028-638-4311 Fax 028-638-8300
 小山支局 〒323-0807 小山市城東1-7-30 電話 0285-22-0855 Fax 0285-23-1556
 日光支局 〒321-1266 日光市中央町1-6 電話 0288-21-2434 Fax 0288-21-4413
 足利通信部 0284-41-2969 栃木通信部 0282-22-1150 佐野通信部 0283-22-1111
 真岡通信部 0285-82-2672 大田原通信部 0287-22-2115 那須塩原通信部 0287-62-2829

購読、配達
 北部販売会 028-638-6300 Fax 028-636-0550 南部販売会 0285-30-2343 Fax 0285-21-4341
 関連会社
 広告 028-635-1261 折込 028-612-2015 旅行 028-624-8181 文化センター 028-636-1818
 栃木よみうり編集部 028-638-5200 栃木南部よみうりタイムス編集部 0283-85-8743

メールは utsunomiya@yomiuri.com へ

宇都宮市特産の大谷石は、地元で秋に開かれる自転車ロードレースの国際大会「ジャパンカップ」に彩りを添えている。この大会の優勝トロフィーは、県都を代表する石工・渡辺哲夫さん(57)の手による大谷石製のオブジェだ。

大谷石 ルネサンス

5

ジャパンカップ飾る

ツゴツとした石塊が、みるみるうちに彫刻作品へと姿をかわった。大会の周回コースをかたどったオブジェを、直線的でありながら森林で温かみのある感じに仕上げると、静かな笑みを広げた。「今年も良くできた。二荒山神社の鳥居やら自転車ナーの注文は難しくなるが、設計図を見せられるといつも『大丈夫です』と引き受けてしまうんだ」

大谷石は、彫刻との相性がいいとされる。ザラリとした独特の質感を持ち、水分の含有量によって白緑、茶褐色と色合いも様々で、表現の可能性が広い。大理石や御影石などと比べて軟らかく、工具の刃が立ちや

熟練の技で優勝杯



ジャパンカップの優勝トロフィーを彫る渡辺さん。左前が試作品(10月、宇都宮市新里町で)。(清武悠樹撮影)

いた時代の一ページだ。しかし、全面が大谷石製の建物が新築されなくなった現在は、ニーズの低迷に伴って石工の数も激減した。石の採掘地や部分によって硬度に差がある大谷石の加工は、工具さばきの力加減が非常に難しい面もあり、経験が問われる世界。渡辺さんのように建築現場の石積みから細工までを担って産業を支える万能の熟練工は、もはや数人しかいないという。

渡辺さんは石工の両親のもとに生まれ、23歳の頃に父に弟子入りした。1983年、28歳にして大谷石建築の傑作「帝國ホテル」の中央玄関部分を東京から愛知県犬山市に移築し、修復する大仕事を任せられた。米国の巨匠フランク・ロイド・ライトの意匠をくみとり、複雑な模様を黙々と彫り続けた経験が石工としての原点になった。着手から1年7か月後、完成した大神殿のようなホテルの玄関を目にした時は「感動で涙があふれた」という。その後も横浜山手聖公会(横浜市)やカトリック松が峰教会(宇都宮市)などの施工・復元でキャリアを積んだ。今、渡辺さんは「大谷にも帝國ホテルの一部を造りたい」と夢を描く。「これぞ大谷石という建物があれば地元観光の目玉になるし、若手に技術を伝える機会にもなる」

すい石材でもある。街中に石蔵が盛んに建てられていた大谷石建築黄金期の1960〜70年代は、工芸品生産も盛んだった。家庭に飾る大谷石製のカエルの置物が流行し、「無事帰る」との語呂合わせから南極大陸観測隊に贈られたこともある。美術工芸品を作る石工だけで20人以上も

後継者育成 初の講座

石工の後継者不足を解消しようと、大谷地区の石材業者らが来年4〜9月、技術訓練講座「大谷アカデミー」を初開催することに決めた。

宇都宮大の藤本信義名誉教授(建築学)が校長を務

創る Create

透明な響きスピーカー人気

大谷石は石材としては軟らかく、穴や凸凹が多くて表面積も大きいことなどから、御影石や大理石などと比べると音をよく吸収する。その特質を生かした大谷石スピーカーが、今年に入って静かな人気を呼んでいる。

宇都宮市宝木本町のオーディオ機器メーカー「サウンドホール響」は、箱形にくりぬいた大谷石によってスピーカー機器を包んだオーディオ商品を取扱している。インテリアとして美しいだけでなく、鳴った音が石に吸収されやすいため次の音の邪魔をせず、透明感のある響きで音楽鑑賞を楽しめる。

メーカー代表の高根沢公男さん(74)によると、今年度は年間20個を超える注文が県内外からあり、2005



大谷石スピーカーへのこだわりを熱く語る高根沢さん(1日、宇都宮市宝木本町で)

て彫刻、積石、敷石、機械操作まで身につける。受講者募集は来年1月頃から、定員は10人程度。経験は問わず、50歳以下の人材を求めている。入学金5万円、月謝が1万円。問い合わせは、事務局の大谷石内外装材協同組合(028・652・700)。

宇都宮市内には大谷石を一面にあしらったスタジアムや石蔵を改装した飲食店も点在し、それらを舞台に音楽や演劇、舞踊など様々なジャンルの芸術家がライブ・パフォーマンスを展開している。今夏は地元が生んだブルースの大物ギタリスト、菊田俊介さんが中心街の石蔵で妙技を披露した。そのライブを主催した宇都宮まちづくり推進機構は「大谷石の音響効果や美観に注目するアーティストは最近、増加傾向にある」と感じている。

音響空間の「演出家」としても、大谷石は再評価されつつあるようだ。(江原桂都)